

立命館 災害復興支援室 瓦版

かわらばん

【第12号】 2012年10月19日発行

夏期ボランティアバス

各便・活動レポート

この夏、災害復興支援室では、教職員等の寄付からなる「復興+R基金」を活用し、サービスマーケティングセンターや学生部と連携し、被災地へのボランティアバス運行と学生派遣を行いました。各便の活動に参加した主な学生の声をご紹介します。

■大船渡夏まつりサポートプロジェクト

- 期間：8/2（木）～8/8（水）
- 活動場所：岩手県大船渡市内
仮設商店街および野の田岸壁周辺
- 対象：課外活動団体、国際関係学部等
- 参加人数：学生17名、引率職員4名



今年4月に大学と協定を締結した岩手県大船渡市で開催された『三陸・大船渡夏祭り』等の夏祭りの運営サポートや、大船渡市の盆踊り「道中踊り」に参加。震災後、初の開催となったお祭りの盛り上げに貢献しました。

宿泊は、ボランティアに開放されている市内の地区公民館を利用し、同じ宿舎を利用し、お祭りにボランティアに訪れていた明治大学の学生たちとも交流を行いました。大船渡夏まつりサポートプロジェクトに参加した学生たちは、現在11月に開催される立命館大学学園祭にて、大船渡の魅力を発信することを目的に、物産販売や写真展示を行なう模擬店企画を準備中です。

■岩手県宮古市への課外活動学生派遣

- 期間：8/23（木）～8/29（水）
- 活動場所：岩手県宮古市内
- 参加学生：課外活動団体（ライフサイエンス研究会、cubes、ハワイアンサークル・メアフラ、出前ちんどん、足もみサークルOBAN、絵本読み聞かせ「卵のきみ」
- 参加人数：学生27名、引率職員2名
- 活動内容：被災地域の仮設住宅集会所にて各サークル・部活の特色を活かした支援活動を実施。



学生の声

- 自分達が普段行っている活動が、これだけの方々を喜ばせ、元気付けることができることを知り感動した。ボランティアの垣根が非常に低くなった。
- 活動が終わり、子どもに「またね!」と言ったら、「次はいつ来るの?」と言われたことが印象的だった。ボランティアは一度では終わってはいけなと感じた。
- 「立命館大学から来ました」と、言うなりすごく笑顔で温かく迎えてくれたことに驚いた。今までボランティアをしてきてくれたRU生に感謝したい。
- 来年も是非このボランティアに参加したい。その時は今回の反省と課題を後輩部員達に伝えて、更に喜んでもらえる企画をしたい。

■後方支援スタッフ派遣

<第11便・『遠野便』>

- 期間：9/4（火）～9/11（火）
- 場所：遠野市、釜石市等沿岸地域
- 参加人数：学生17名、引率職員1名
- 活動内容：NPO法人遠野まごころネットにて、地域づくり支援、農業支援、被災した学校図書館での献本作業等



学生の声

- 実際に現地へ足を運ぶと、想像以上に復興は進んでおらず、復興に多くの時間を要することを痛感した。今回現地で見たことを友人などに話し震災を風化させないようにすることで、少しでも被災地の役に立ちたいと思った。

<第12便・『宮古便』>

- 期間：9/17（月）～9/24（月）
- 活動場所：岩手県宮古市
- 参加人数：学生13名、引率職員2名
- 活動内容：被災地区の視察、仮設住宅での交流企画（自分で表札をつくろう! ワークショップ/立命館大学たこ焼きサロン/子どもたちとのレクリエーション等）



学生の声

- 表札づくりに参加した住民の方に「次に引っ越した新しい家に表札を飾りたい」と言っていたいただいた事がとても嬉しかった。表札はすべてのご家庭に必要なものなので、普段談話室にいらっしゃらない方がお越しになる良い機会になったようでした。
- 現地でいろんなことを感じ、学んで経験した今は『ほっとけへん』という想いがとても強くなった。テレビなどでは復興した町の映像が流れているが、実際にはまだまだ復興していない町もあり、支援を継続することの必要さを知った。

<その他の活動>

- 『スマイルエンジン山形』プロジェクト
- 期間：8/17（金）～8/20（月）
- 活動場所：山形県山形市・宮城県石巻市
- 対象：復興ボランティア経験のある学生
- 参加人数：学生11名、引率職員3名
- いわてGINGA-NETプロジェクト
- 『夏GINGA2012』立命館便
- 期間：8/14（火）～8/21（火）
- 活動場所：岩手県釜石市他、大槌町等岩手県沿岸南部を中心とした地域
- 参加人数：25名、引率職員1名
- 活動内容：仮設住宅でのサロン活動等

10/8-10 インドネシア

政府防災研修団（第2期）が

岩手県被災地を訪問

9/30（日）～10/13（日）までの2週間、インドネシアの行政官や大学研究者25名を招聘し、京都および岩手県にて防災研修が実施されました。

インドネシアは、2004年のスマトラ島沖地震において、近年の自然災害で被災した各国の中で最も多くの犠牲者を出し、以降も繰り返し大きな地震や自然災害による被害を受けています。この研修は、災害による被害を受けやすい日本とインドネシアが教訓を共有することで、災害に強い国づくり、地域づくりへとつなげることを狙いとしています。

研修1週目は立命館大学の衣笠キャンパス、朱雀キャンパスにおいて、コミュニティ防災、リスクコミュニケーション、経済的視点からの災害評価など、座学中心に講義を受け、2週目は、遠野市、宮古市、釜石市、大船渡市、陸前高田市および東京都を訪問しました。立命館災害復興支援室とも深い関わりのある宮古市では、本学理工学部宗本准教授が市内鉾ヶ崎地区に学生と建設した簡易集会所 ODENSE2 号を訪問し、社会福祉協議会事務局長および自治会長の方との意見交換が行われました。

今年4月に本学と災害復興にむけた連携協力に関する協定を締結した大船渡市では

復興計画や環境未来都市の説明を受けました。



▲講義終了後インドネシア土産贈呈の様子



▲ ODENSE2 号視察の様子

津波被害を知る写真展示

写真展「3.11 赤浜」を開催

大槌町赤浜在住のアマチュアカメラマン 菊池公男さんが、地震発生直後から町や避難状況を撮影した「写真報告3・11 赤浜」を開催。立命館大学国際平和ミュージアムが開催する「世界報道写真展」と同じ会場で、28枚の写真パネルの展示を行っています。



▲衣笠(国際平和ミュージアム)展示

菊池公男写真展

『写真報告3.11 赤浜』

<衣笠キャンパスでの展示>

会期：9/15（土）～10/12（金）
場所：国際平和ミュージアム1階ロビー
<BKCキャンパス展示>
会期：10/17（水）～11/1（木）
場所：エボック21 1階ホール

各会場9：30-16：30、入館16：00まで。
衣笠での開催は終了しました。

イノベーションジャパン 2012

東京で大学の復興支援活動を発信

去る9/27（木）-9/28（金）東京都港区にある東京国際フォーラムで開催された「産学官連携推進会議<第11回>/イノベーション・ジャパン2012」において、立命館大学の研究成果や震災復興支援活動を紹介。

復興支援に関するコーナーでは、岩手県宮古市に理工学部建築都市デザイン学科の学生たちが建設した簡易集会所「ODENSE」の模型も設置。教育と研究を通じた復興支援のアピールを行いました。

今回展示した模型や、復興支援の取り組みを紹介するパネルは、今後立命館大学内での展示も行なう予定です。

展示場所や期間等の詳細が決まり次第、災害復興支援室HPや瓦版にてお知らせします。



▲会場で模型を組み立てる学生たち

これからの主な取り組み

- 10/19 岩手県教育委員会への復興教育支援事業レクチャー訪問（スポーツ健康科学部）
- 10/27 大船渡市立猪川小学校 PTA および地域住民への楽しみながら継続できる運動の体験指導『体・ひきしめ運動! Let's Try ～大人も輝くために～』開催（スポーツ健康科学部）
- 10/22-11/3「東日本・家族応援プロジェクト2012 in 大船渡」（応用人間科学研究科）

<それぞれの取り組みの詳細については、今後HPや瓦版でお伝えします。>

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要性があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しています

編集後記

秋になってしまいました。夏休みのバス運行から企画盛り沢山の災害復興支援室でした。大学の夏期休暇中は瓦版をお休みしておりましたが、また新しい情報を可能な限り、リアルタイムでお伝えできるよう取り組んでいきますので、今後とも宜しくお願い致します。

立命館大学災害復興支援室瓦版【第12号】

発行人・編集 立命館災害復興支援室

075-813-8130（総合企画課内）

メール 311fukko@st.ritsumei.ac.jp

HP <http://www.ritsumei.ac.jp/rs/20110311/>